

## ★「過程」を大事にする子どもたちを★

今年は、例年より早い5月の終わり頃から川のほとりで小さな明かりをともしながら舞っているホタルの姿を見ることができるようになってきています。

さて、5月には、運動会に向けてトランペット鼓隊や徒競走・リレー・行進などに目標をもって取り組んできました。残念ながら、新型コロナウイルスの拡大による非常事態宣言が広島県にも発令され、保護者・地域の方に見ていただくことはかなわなかったのですが、児童一人一人が「一生懸命にやりきった」姿は、とても美しいものでした。これも、ひとえに保護者の方の温かい励ましの声や地域の方の優しい見守りがあったからこそその姿だったと思います。この運動会へ向けての「一生懸命に取り組む姿」や「仲間と協力する姿」を今後の学校生活にも生かすことができるようにしてまいります。

6月に入り、授業での子どもたちの様子を見ると、課題解決に向けての「過程」を大事にしている姿をよく見かけます。「わからない」時に、「うん!？」と手を止めた後に、図を描いたり以前学習したことをまとめた掲示物をじっくり見たり文章に線を引いたり、自分で解決に向けて考えを深めていく。それでもわからなければ、友だちと話し合い（友だちの話をしっかりと聴き）参考になることをメモして手がかりにする。また、時には、友だちのノートなどを見て解決方法（答えではない）をヒントにして、最終的に自分の解決した手順がよいかどうか吟味する。

「わからない。」は、勉強の始まりですが、学校では、答えを教えるのではなく、手がかりを見つけさせながら考えを深める取組をこれからも進めていきたいと思えます。

ご家庭でも、時には、夜の川沿いの

明かりを見ながら、「あれ、このホタルと昨日見たホタルでは明かりの点く間隔が違うようだけど……………」と、興味深い手がかりを与えてみてください。ゲンジボタルとヘイケボタルの違いや雄雌の違いに行きつく子どももいるのではないのでしょうか。



校長 田丸 栄